あるむぜお55

府中市郷土の森だより　al museo NO. 55　2001年3月20日

2 府中宿再訪Part4　府中宿に住む人－中屋直右衛門一代記

3 展示への招待　特別展 府中宿再訪

4-5 ノート　2001年の天文現象－惑星＆流星群の見所

6 最近の発掘調査　再び発見！ 埋められた渡来銭

7 収蔵資料の紹介　「ハンダイ」とは何ですか

8 ナチュラルセブン　第4話 侵略する草たち

表紙写真 「中屋」の印のついた食器類
現在伊勢丹デパートの建っている地域の発掘で出土したもの

府中宿に住む人ー中屋直右衛門一代記

「そう、かれこれ35年近いか。長いような、短いような……。生まれた家は隣村の八幡宿であったが、兄弟に分地をして一家を起こして貰える程の身代はなく、弟の自分は何とか活計の道を探さねばならなかった。

それなら、ようやく活気を帯びてきた府中の宿場で商売をするのが地道な方法と思い、この新宿に店を借り女房と2人で旅籠屋を始めたのが文化10年（1813）のこと。30代半ばのことだった。屋号は中屋とした。

新宿は府中3町のうちじゃあ一番新しい地域で、わしらより2～30年前位から人見だの、川向こうの大丸だの近くの村々から出てきて新たに住み着く者が増えていた。もっともその中には最初から百姓株を手に入れて、土地持ち、屋敷持ちの場合もあったが、わし等のように店借りって場合もある。そんな時は『人別帳』には“水呑”と書かれるが、これは土地持ちじゃないって言うだけの事で、商売する上で何も困りはしない。

店の場所はお宮のはす向かい。お宮ってのは六所宮（大国魂神社）のことだが、その参道の並木から東へ5軒目、両隣も旅籠屋の並ぶ、宿場の中でも一等地だ。地主は柏屋の三四郎。爺さんの代にやっぱり車返村から来たが、結構な身代を築いて、百姓代を勤める家柄になっていた。

30年以上の間にはいろいろあった。倅が4人、娘も3人授かった。その内1人づつは可愛そうに3つで亡くしてしまったが、子供が皆大きくなるまで育つっていうのはなかなか難しいもんだ。娘の1人は天保2年（1831）に17の歳で逝ってしまった。不憫でもあったし、この頃にはわしにも余裕が出来ていたので、寺に木蓮華を1対寄進した。旦那寺は初めは番場の称名寺だったが、途中で本町の安養寺に変えた。しかし天保11年のことだが、25にもなっていた総領が江戸で亡くなるとはよもや思わなかった。この時はいささか参った。まさかなあ……

夫婦の他は下女2人で始めた店だったが、まあわしの商売も上手かったと言えようが、場所もよかったんだろう、20年の間に下女は3人、下男も1人置くようになった。

なんと言っても一番大きな変わりは、天保6年の火事の後だ。12月24日、新宿の東はじ近くから出た火は一時ほどの間に番場のはずれの長福寺まで走った。本町の通も焼けて、宿場は全滅状態だった。こういう事をきっかけにして町の中が動くのはよくあるが、わしもこれを機会に自分の土地と家を持つことになった。これは“水呑”から“百姓”になることで、“百姓株”を手に入れるということだ。

場所は前の店から2軒東へよった所で、延宝6年（1678）の検地の時には平左衛門の屋敷だった。平兵衛が跡を取っていたが随分前に家は絶えていた。その後の地主は民八で、年貢や伝馬役は民八が出していた。火事の前は茂八が借りて吉田屋という旅籠をしていた。

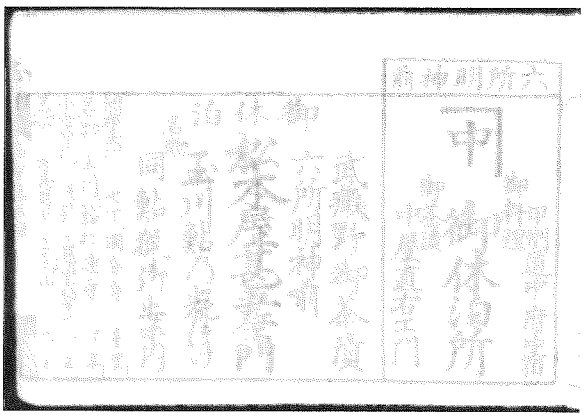
そこでこの平兵衛の百姓株を貰うことにして、倅に名乗らせることにした。倅の代になれば中屋平兵衛、名実ともに府中宿の住人になったというわけだ。

そりゃあ府中宿には延宝検地の前からの素性のはっきりした家も何軒かはある。しかしいろんな時代に、わし等のように新しく来て、どうにかここに根付いた者の方が多いさ。そういう者達がいるから町に活気があるってもんだ。

そろそろわしの生涯も終わりだと思うがまあよくやった、と言える一生だったろう。」

弘化4年（1847）6月11日 中屋直右衛門没 行年67歳。
史料の隙間を想像で紡いだ、ある男の物語。

馬場治子



「甲州道中商人鑑」（山梨県立図書館蔵）に載る“中屋”の広告

特別展 甲州街道 府中宿再訪

3/24 sat ～ 5/6 sun

“甲州街道府中宿”訪ねたことがおありですか。

江戸時代、府中の町は五街道の一つ甲州街道の宿場でした。

裾はしょりをし、笠と振分け荷物を背にした旅人が今、江戸の方からやって来ます。江戸城をぐるりと西へ回って、四谷の大木戸を出、内藤新宿の追分で青梅道と分かれればもう江戸とは言いません。

高井戸、布田五宿と宿場を過ぎ、五街道の起点、江戸日本橋から約８里（30km強）、半日歩き続けた頃に着くのが府中の宿です。

まず目に入るのは何でしょう。デパート？ 30階建てのマンション？ 自動車がいっぱいの交差点？ いえいえ、それらを見透かして想像してください。六所宮（大国魂神社）の杜、参道の並木、高札場、今と同じ所に見えています。他には？ 宿場には付き物という本陣はどこ？ 問屋場もどこにあるの？ 宿屋はどこがお勧めですか？

そう、意外と府中宿の様子が知られていないのです。

現代の街中に、どことなく見え隠れしているのに、もう一つわからない府中宿の実態。そんなもどかしさをお持ちの市民も多いのではありませんか。

府中宿ってどんなところ？

—五街道・甲州街道・府中宿—

府中宿を往くのはどんな人たち？

—江戸から半日の宿場町—

府中宿に住むのはどんな人たち？

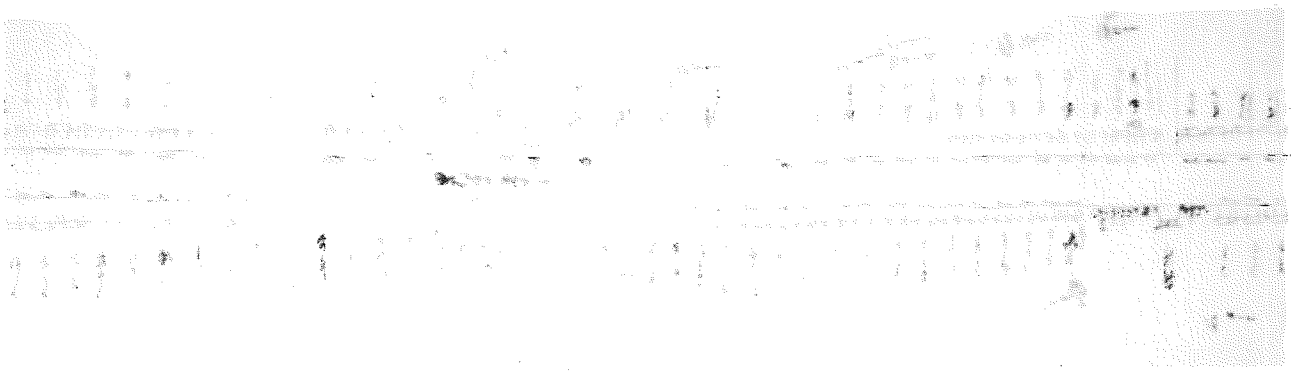
—府中宿の様子—

この３点をテーマに展覧会をいたします。

これまで「あるむぜお」52号～今号の“府中宿再訪part1～4”に掲載した資料の他、数年前に発見された「朱書 府中宿絵図」も初公開されますし、三井文庫蔵の華麗な大日本五道中図屏風（4/7から展示）や大田南畝の自筆本「三餐餘興」（4/5まで展示）等も出品されます。

時空を越えてもう一度府中宿を訪ねたら、４つ目のテーマ“これからどんな21世紀の府中の町を作るのか”を考えるきっかけにもなるはずです。 *(Baba Haruko)*

朱書 府中宿絵図 （小川小枝子氏蔵）
天保６年（1835）12月の府中宿大火の生々しい幕府への報告絵図。宿場の施設の他、当時の住人が個人名で確定できる貴重な資料です。



NOTE

2001年の天文現象
惑星&流星群の見所

本間　隆幸

火を吐くしし座（1998年しし座流星群の夜に現れた大流星）　撮影：前川和範

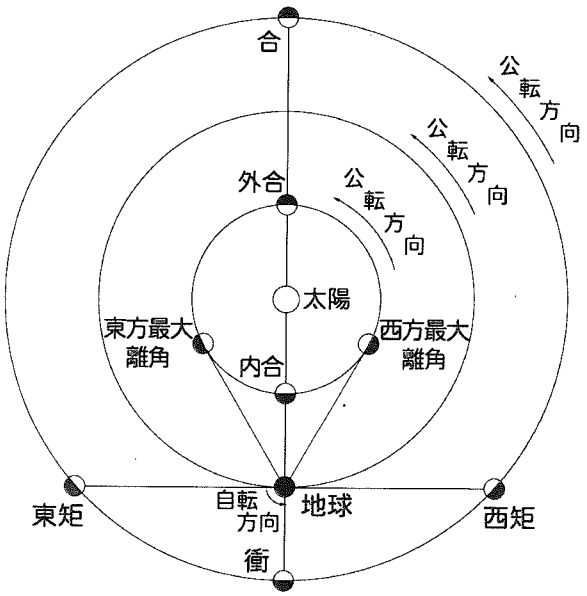
毎年いろいろな天文現象が起こり、人々を楽しませたり、がっかりさせたりしています。昨年は7月の皆既月食などが楽しめました。今年はアフリカで皆既日食が起こり、火星が2年2か月ぶりに地球に最接近するなど惑星が結構楽しめますし、流星群の当たり年にもなっています。また太陽活動が盛んなため、オーロラも活発で頻繁に発生しています。ここでは、2001年4月以降の惑星と流星群の案内をいたしましょう。

▼惑星＜PLANET＞

21世紀に入って賑やかだった宵空も、金星が3月28日に内合を迎え、明け方の空へと移り、また木星・土星も日に1日と条件が悪くなってきています。しかし、明けの明星となった金星は5月5日の子どもの日には最大光度を迎え、この前後数日は午前中の青空に金星を見つけることも可能です。このころの金星を望遠鏡で拡大すると三日月状に見えます。時間の経過とともに地球からの距離が離れるため、見かけの大きさはどんどん小さくなり、6月8日の西方最大離角の頃には半月状となります。その後はどんどん地球から遠ざかり、少しずつ光度を落とし、太陽からの離角を縮めて条件が悪くなっていきます。そして2002年の年明け早々に外合を迎えます。

木星と土星のランデブーも3月以降は、木星がどんどん先行し離れていきます。木星は6月14日に合を迎え、7月過ぎにはおうし座からふたご座に移ります。土星は5月26日に合を迎え、年末の12月4日に衝となり、再び観望好機を迎えます。さて、その間に木星と土星は、それぞれ月に隠される木星食と土星食が起こります。土星食は2回日本で見える時間に起きますが、10月8日は仙台以北でしか見ることができず、東京では土星の北側を月が通過して隠すことはなく、11月4日も日の出後の青空での現象なので、条件がよくありません。木星食は早朝の現象ですが、月も細く条件がいいのでぜひ早起きして見たいイベントです。月齢は25.9の下弦過ぎの細い月です。その月の明るい側に3時過ぎに隠され、影の部分から4時前に出現します。

また、2年2か月ぶりに火星が観望好機に入りつつあります。4月の時点では、まだ23時前後にならない



と昇ってこないため実質観測は明け方で、高度が高くなってからになります。6月13日に衝を迎え、この頃は一晩中赤く明るく輝いた姿を見ることができます。その後6月22日に地球と最接近の位置にきます。衝の日と地球最接近の日がずれているのは、火星の軌道が円ではなく、楕円となっているため起こるもの。そのため地球に最接近する火星も、接近のたびごとに接近距離が変わって見え具合も随分変わります。2001年の接近は距離も近く、さらに接近の時期が日本列島で比較的気流の安定している夏至前後の接近なので条件もよいです。ちなみに次回の接近は2003年の大接近となります。

▼2001年は流星群当たり年

今年のペルセウス流星群は下弦の月があるものの条件は比較的良く、ふたご座流星群は月明かりに邪魔されることなく楽しむことができます。また、しし座流星群は最新のピーク予測によると、大出現が日本でちょうど観測できる時間に起こるというので油断できません。

日本で見やすい流星群は、1月のりゅう座流星群、8月のペルセウス座流星群、12月のふたご座流星群で、これを3大流星群と言っています。しし座流星群は、比較的若い流星群と考えられているため、軌道上に塵（ダスト）が充分広がりきっていないため、母彗星が接近した付近での出現が目立ち、広がっていないぶん塵がかたまって存在しているために、運良くそこを地球が横切ると流星雨となります。

▼ペルセウス座流星群＜Perseids＞

毎年活発な活動を見せる流星群で、夏休み中ということもあって、この流星群の流れ星を見たと言う人は多いのではないでしょうか。この群の特徴は流星が速く、そして明るい流星が多いのが特徴となっています。月明かりがあっても楽しめる流星群です。2001年の極大夜は月齢が23で下弦の月の頃となるので、夜半から半月がありますが、条件はまずまずです。

名称　：　ペルセウス座流星群
活動期間　：　7月17日 ～ 8月24日
輻射点位置　：　赤経＝46.2、赤緯＝+57.4
極大太陽黄経　：　140.0
母天体　：　スイフト-タットル周期彗星

▼しし座流星群＜Leonids＞

母彗星が回帰する（太陽に接近する）頃、大出現を今まで何度となく見せている、まだ比較的若い流星群です。1998年2月に母彗星であるテンペル・タットル彗星が回帰し、従来の極大ピークが日本の観測時間の夜にあたり活発な活動が予想され、マスコミの報道によって多くの人が空を見上げました。しかし、ピークは予想に反して、それより早い時間に起こったため、ヨーロッパで明るい流星(火球)大出現となりました。

そして1999年は、またもやヨーロッパで18日未明、HR5000（1時間あたり5000個）を超える流星雨となりました。そして日本では19日未明にHR100を越える流星が見られました。2000年は満月過ぎの月明かりも有り、世界的にも数千を越すような大出現はありませんでした。

そして2001年、この流星群が再び注目を集めています。イギリスの天文学者デビット・アッシャー博士は独自の理論で、母彗星からの放出された塵の運動を計算し、地球の軌道と比較することにより正確なピークを予測しています。この推測は、出現数は別としても、出現時間については分単位でかなり正確に的中していて、この理論に懐疑的だった研究者にも、認められてきています。この予測によると、2001年11月19日午前2時31分に、9回帰前（1699年）のダストに地球が遭遇し、1時間あたりの出現数に換算して数千個の流星が、さらに同日午前3時19分に4回帰前（1866年）のダストに遭遇し、HR10000個もの流星が見えるそうです。

この時間に、しし座流星群を見ることができる地域は、オーストラリア、東アジア地域となります。したがって日本でも見られるわけです。この理論が正しいとすれば、相当数の数の流星が観測できることになります。実際のところ、その日になってみないと何とも言えませんが、アッシャ理論の正しさが再び証明され、多くの流星が見えることを期待しましょう。2001年の極大夜は新月過ぎの月となるので、宵のうちに月も沈み、流星群の活動が見られる夜半前から絶好の条件となります。

名称　：　しし座流星群
活動期間　：　11月15日 ～ 11月22日
輻射点位置　：　赤経＝153、赤緯＝+22
極大太陽黄経　：　235.27　236.46
母天体　：　テンペル-タットル周期彗星

▼ふたご座流星群＜Geminids＞

毎年活発な活動を見せる流星群です。この群の特徴は流星が速く、そして流星数が多いのが特徴となっています。2001年の12月15日が新月となるので、ふたご座も一晩中見えて条件は最高です。しかし暗い流星も多いため空の明るい市街地だと見える流星の数はぐっと少なくなるので、観望は少しでも暗い空がお勧めです。

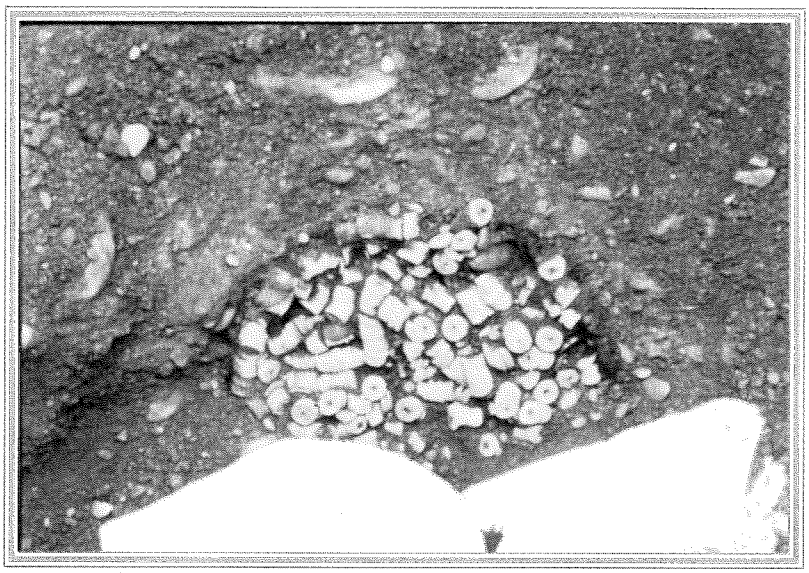
名称　：　ふたご座流星群
活動期間　：　12月7日 ～ 12月18日
輻射点位置　：　赤経＝113、赤緯＝+32
極大太陽黄経　：　262.3
母天体　：　小惑星　ファエトン

最近の発掘調査

再び発見！埋められた渡来銭

宮西町　合同庁舎入口交差点付近水道管配管工事立会い調査から

府中市遺跡調査会　野田　憲一郎



本誌上で何度かとりあげてきた『並木西ビル地区』の大量出土銭（44・54・55号）の話題がさめやらぬ今日この頃，同じ宮西町で新たに中世の渡来銭が大量に発見されました。府中街道の合同庁舎入口交差点隣接地で，水道管配管工事の立会い調査時に確認されたものです。

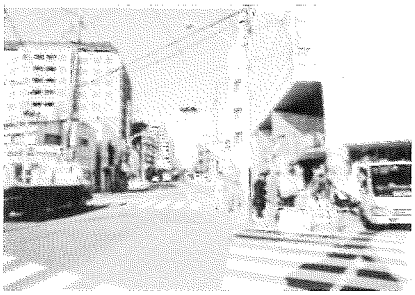
この大量の渡来銭は，現在の道路面からおよそ2.6ｍ下の立川礫層中に埋められていました。最初に発見された時，まとまっていた銭の約３分の２は掘削機械によって崩れてしまいました。しかし残りは原型に近い状態で取り上げることができたため，次のようなことが明らかとなりました。

出土した銭は，もともと緡（百枚前後の銭を藁紐で束ね一単位としたもの）の状態のものを樽の内周に沿って輪積み状に積み，その内側は緡を並列させていました。見つかった銭は，錆び付いた緡がその途中で折れたものが大半でしたが，なかには緡紐が残っているものも見られました。出土した銭は大部分を回収することができ，総数は約37,000枚を数えました。

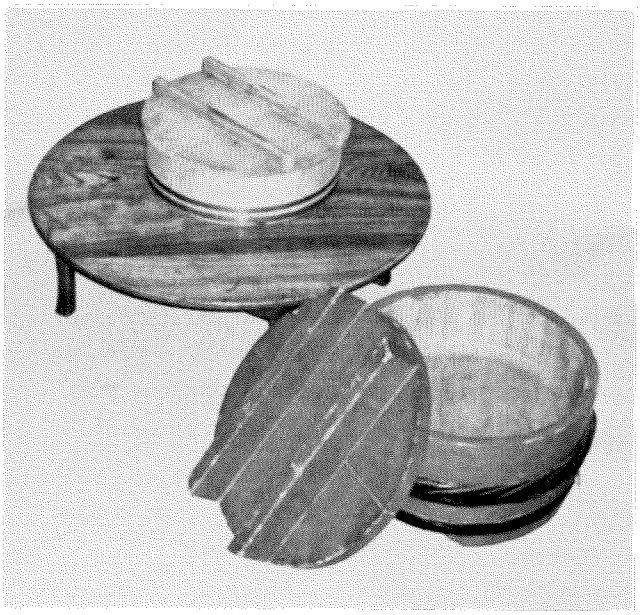
また，この銭は木製の樽に収納されていることがわかりました。この樽も掘削機械によって約３分の２は壊れていましたが，掘削時の残土中から残骸を回収することができました。回収した樽の板材は，円形に加工した直径約36cmの底板と高さ約30cmの側板で，側板の下部には竹製のタガが確認されました。また蓋は掘削時の残土中からほぼ全体を見つけ出すことができました。こうした樽に銭貨が収められている例はたいへん珍しいようです。

府中市内で出土した大量の渡来銭は，『並木西ビル地区』と『府中ＴＳＡビル地区』（本誌17号）の２か所で，どちらもケヤキ並木と府中街道の間の宮西町一丁目付近に集中していること，そしていずれも掘り返して銭を抜き取った痕跡が見られないというところで共通しています。

これまで「大量の銭が見つかった」というと，それは富豪などの隠し財産ではないかとだれしもが考えたかと思います。しかし最近ではこのような大量出土銭の発掘，研究が進み，「掘り返されない銭」は単なる隠し財産というだけでなく，その土地を使用するにあたって土地の神に銭を納め，結界をはるといった呪術的な目的も考えられるようになりました。今回発見されたものを含め，これまで近隣で発見された大量の渡来銭は，少なくとも中世から踏襲されていると考えられる街道沿いから出土しています。このことをふまえると，これらは何らかの領域を囲っているようにも思われます。今後周辺の調査が進むにつれ「銭を埋める」といった行為の一つの意味が明らかとなることでしょう。



合同庁舎入口交差点
右の角が発見場所。
ここからわずか120ｍ北方で3,890枚が、北東220ｍの地点で常滑焼きの大甕２つに納められた約16万枚が出土しています。近隣では、今日資料の所在が不明ながら1932年に60貫余り（重量か）の銭が出土した記録があり、1976年にも大量の銭が出土したといいます。府中は全国的にも極めて珍しい、「大量出土銭」の集中地といってよいでしょう。



博物館所蔵の「ハンダイ」の数々
左下の「ハンダイ」は博物館では「ちゃぶ台」として収蔵されている。
右の「ハンダイ」は朱塗り。共同で購入、保管しておもに結婚式、七五三などの慶事に使われていたもの。多くの膳や椀などとともに倉に保管され、慶事に借り出され使われた。

収蔵資料の紹介

ハンダイとは何ですか

佐藤　智敬

「このハンダイに餅とか入れてお祝いの時に近所に配ったりしたんだよ……」最近このような話を聞きました。2001年2月1日～3月31日の予定で行なわれるミニ展「冠婚葬祭で使った食器 ームラの助け合い」準備の際です。本宿油屋組（現西府町）の皆さんから、かつて共同で使っていた食器類を多数博物館に寄贈していただきました。それを中心にした展示解説文を考えるために、思い出などを油屋組の人達に教えてもらっている最中だったと記憶しています。蓋付きタライのような形の器が「ハンダイ」なる名を持つ民具であることを、不勉強な私はその時初めて知りました。

この「ハンダイ」は漢字でどう書くのだろう？これまで博物館に寄贈された民具記録を見ると「飯台」または「はんだい」となっている。インターネットで検索すると、スシ飯をつくったり混ぜご飯をまぜる木製の容器のことをそう呼んでいる。そうか、ご飯や、餅を入れるためのものだから「飯台」なのか。一つオリコウになった。よかったヨカッタ。でもこの呼び名は全国で同じ様に「飯台」なのか？そこで広辞苑を紐解いてみる。あれ？「飯台　①幾人かが並びまたは囲んで食事をする台。ちゃぶだい。②箱膳に同じ」。各自の食器を入れたりお膳として使われていた箱膳、大正以降箱膳に変わって広まり、お茶の間には必ずあったあのちゃぶ台の事も一般には「ハンダイ」というらしい。

どうやら府中の「ハンダイ」は、全国区ではないようです。『日本民具辞典』を見てみると、さすがにこちらにはちゃぶ台等の他に「半台」として「赤飯などを入れる桶形の道具」「お櫃より径に対して高さが低い」などと説明があります。府中に限らず埼玉、神奈川、群馬、静岡など各地で「ハンダイ」は同じもののことを指すようです。しかし「半台」と書く事もあるようだし、ほかに「はんぼう」、「はんぎり」など様々な別名があることも分かってきました。

この道具は食生活に使われるものであることは共通しているようです。府中周辺では、餅や赤飯を入れて近所に配るための蓋付きの底の浅い桶を「ハンダイ」と呼び習わしてきました。しかし「ハンダイ」という言葉の意味するものは地域によって異なります。ゆえに「ハンダイに餅を詰め……」というと「箱膳に餅を詰め」とか「ちゃぶ台に餅を詰め」（??）と思う人もいるかもしれないのです。また逆に「はんぎり」「オハチ」などの異なる名前を持つ「ハンダイ」（と府中などで呼ばれているもの）をどこかで発見することもできるでしょう。

こうしたわけで、今回のミニ展は「ハンダイ」とカタカナで解説をつけることにしました。

あなたの場所では「ハンダイ」とは何の事ですか？

ナチュラルセブン

第４話　「侵略する草たち」

中村　武史

調査団きっての元気印と言えばソネ植物班長。未だ信じがたいことではあるが，亡くなってからもう１０年近くになる。調査団結成以来，バイタリティー溢れる行動力で牽引車的役割を担い，しばしば感心させられたものだ。思い出は語り尽くせないほどある中で，市内帰化植物の観察会で教えられた衝撃の事実を紹介しよう。あらためて感謝の気持ちを込めると同時に，ご冥福をお祈りしたい。すべては事実に基づいた創造の世界…Mr. SONE, forever！

生物同志が攻めぎあう…。やれ環境破壊だ温暖化だと，やたらクローズアップされる地球環境問題も深刻に違いないが，自然界にはさらに恐ろしい事実が潜んでいた。それは侵略！えっ？SF 小説じゃないんだからって？いやいやもうすでにインベーダーはあなたの周辺を埋め尽くしているのだ。

「このタンポポ見てごらん。私が手に持っているタンポポと同じかい？」相変わらずの大声でぶっきらぼうに問いかけるソネ班長の声。なるほど足元には黄色く鮮やかないくつものタンポポが咲いていた。だがどうだろう，一見ソネ班長の手の中にあるタンポポと眼下に見るタンポポは何ら変わりはないように見えた。「そんな風じゃわかんないんだよ！これこれ，ここをよ～く見てみろよ。」顔の高さと同じ位置に上げられた２つのタンポポには果たして決定的な違いがあった。地面から抜かれた方のタンポポでは，花の下部にある総苞片がすべて反り返っていたのである。ソネ班長が最初から持っていた方のタンポポでは反り返っていない。「こいつは外国からの侵入者，い～や，すでに侵略者だ！」何度聞いても地響きのような声，最初の頃は怒鳴られているのかと思ったほどだ。ソネ班長によれば，現在この関東地方に生育するタンポポのほとんどはヨーロッパ原産のセイヨウタンポポであり，在来のカントウタンポポはこの侵略者によって駆逐されてしまったのだと言う。交通手段の発達等で，昨今世界各国から様々な経緯で多くの植物が入り込んでくるが，国内に定着するものは一部の種類。この限られた定着種が，我が国に昔から生育していた植物では埋め切れない場所に移住したのだ。埋立地やビルを壊した跡の空地のように，都市化によって新たに生じる環境が広がるにつれて目立ってくるこれらを帰化植物と呼んでいる。セイヨウタンポポの場合，自身で種子を作り出すことができるゆえ，その繁殖力は極めて高く，また生育力も強い。まさに都市化の度合いを示す指標植物なのである。都市化が進めば進むほど在来種は消滅し，代わりに入り込むのは外国からの侵入者たち…。

セイヨウタンポポ　　カントウタンポポ

「皆さん，タンポポぐらいで驚いていちゃあダメだよ，侵略者が私たちの街にどれだけ入り込んでいるのか教えてあげよう！」一行は市の中心部へと歩を進めた。そこでは普段何気なく見過ごしている街路樹の植えマス，空地，公園など，人の手によって造られた自然環境にはびこる，おびただしい数の帰化植物を確認することができた。呆気に取られている参加者の背筋を伸ばすが如く，またまた大声が轟く。

「どうだい，ずいぶんたくさんあるだろう？今までごく当たり前に生えていると思ってた植物が，ここで見る限りほとんどが帰化植物なんだからさ。」一同キツネにつままれた表情で，もはや名探偵による意外な真犯人の提示に驚く事件関係者の様相。おかまいなしで話は続けられる。

「最も多く帰化植物が入り込んでいるのは，この辺じゃ多摩川なんです。造成地緑化のため持ち込んだり，まぁ色々。ほら有名なセイタカアワダチソウだって園芸品種として入り込んだものなんだよ。どうだ，驚いたか！」さすがに観察会も終わりに近い頃になると，もうかなり慣れっこになっているはずとは言え，やはりメガトン級のこの声は最後まで参加者たちの鼓膜を震わせた。「人の手が加わらなきゃ自然は自然のままなんだよ。守りの強固な城だって，中に陣取る者が扉を開けば当然外から攻められる。してみると自然界を中からオープンにしているのは俺達か？…皆さん，我々こそ本当の侵略者のようですな…ワ～ハッハッハッ！」

……呆れ返るほどの元気パワー，決して忘れることはない。21 世紀もしっかりと継承させていただこう。

※あるむぜお　イタリア語で【博物館で】【博物館にて】の意

府中市郷土の森だより〈あるむぜお〉No.55　発行日 2001/3/20　編集・発行　(財) 府中文化振興財団 府中市郷土の森
〒183-0026 東京都府中市南町6-32　TEL 042-368-7921　http：//www.fuchu-cpf.or.jp/museum/